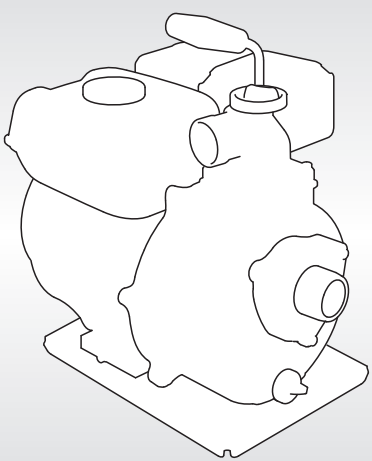
HONDA

ポンプ

WH15XT/20XT

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について
この取扱説明書は
- 本機を操作するときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいたポンプで安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう.... 4
安全ラベル 7

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 9
エンジンスイッチ....11
エンジン回転調整レバー 11
始動グリップ 12
チョークレバー 12
燃料コックレバー....13
よび水注入プラグ....13
ホース連結器 14
燃料計（WH20XT のみ）....14

ホースの取付けかた 15
吸引ホース・吐出ホース 15

エンジンをかける前に点検しましょう 17
燃料の点検 17
エンジンオイルの点検....19
エアクリーナー（空気清浄器）の点検....20
ホースバンド、ホース連結器の締付け点検 21
ストレーナー（ろ過装置）の点検....21
よび水の点検 22

エンジンのかけかた 23

エンジンのとめかた 27

定期点検を行いましょう 29

点検・整備のしかた 30
エンジンオイルの交換 30
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃 32
点火プラグの点検・調整・交換 34
燃料ろ過カップの清掃 36

長期間使用しないときの手入れ 37

故障のときは 40

主要諸元 41

同梱部品・同梱工具 42

同梱部品の組付けかた（WH15XT のみ） 43

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- 作業を始める前に
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

警告

- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地（地面が凹凸していたり軟らかい場所）や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体には使用しないでください。本機を損傷するばかりでなく、火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。
- 海水、温泉水、化学薬品、油脂類などには使用しないでください。腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 泥水を吸水しないでください。ポンプ内部が損傷するおそれがあります。

• 使用中

- 使用中は建物およびその他の施設から、本機を 1 m 以上離してください。また本機のまわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（わらくず、紙くずなど）を近づけないでください。本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 使用中に送水（吸水）しなくなった場合は、すぐにエンジンを止めてください。送水（吸水）しない状態で運転を続けると、ポンプ内の残水が過熱し誤って触れるとヤケドをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。

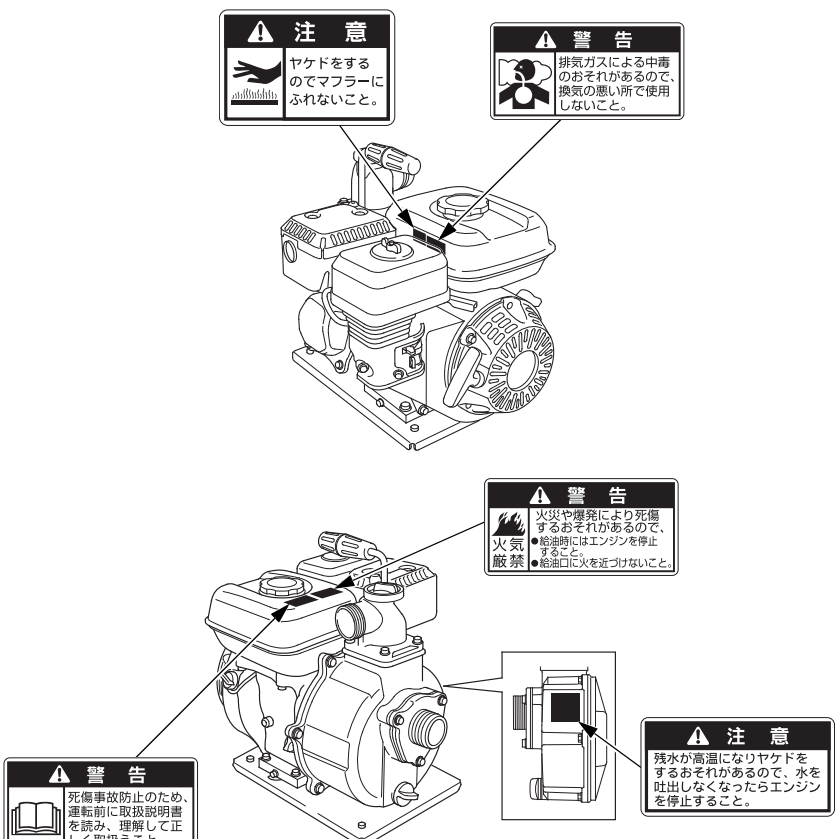
警告

- 使い終わったら
- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。
- 各部の点検・清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発の危険があるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。

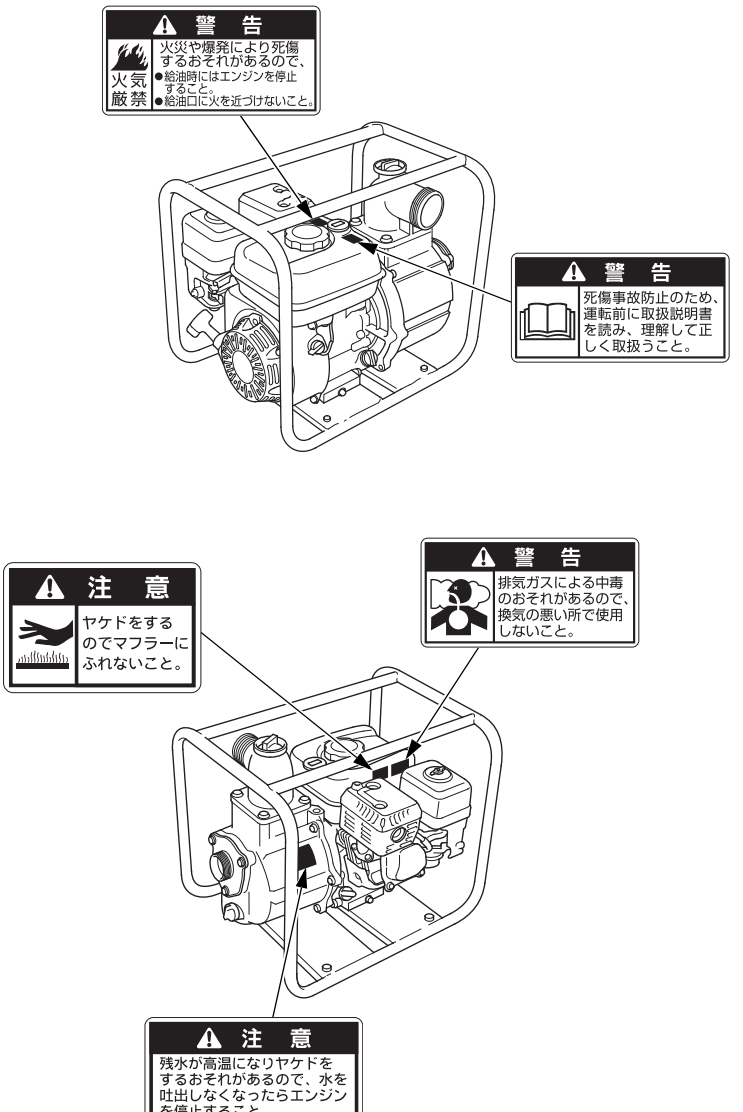
安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買い上げ販売店へお問い合わせください。

[WH15XT]

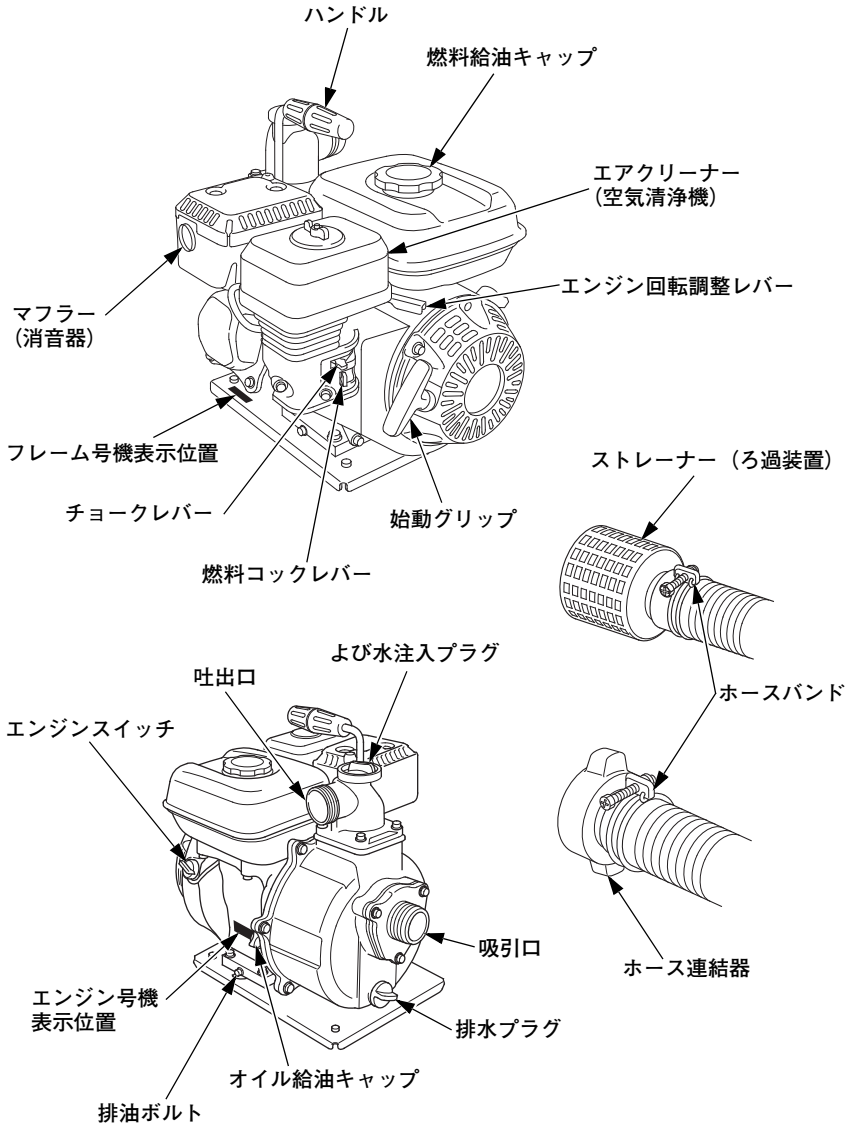


[WH20XT]

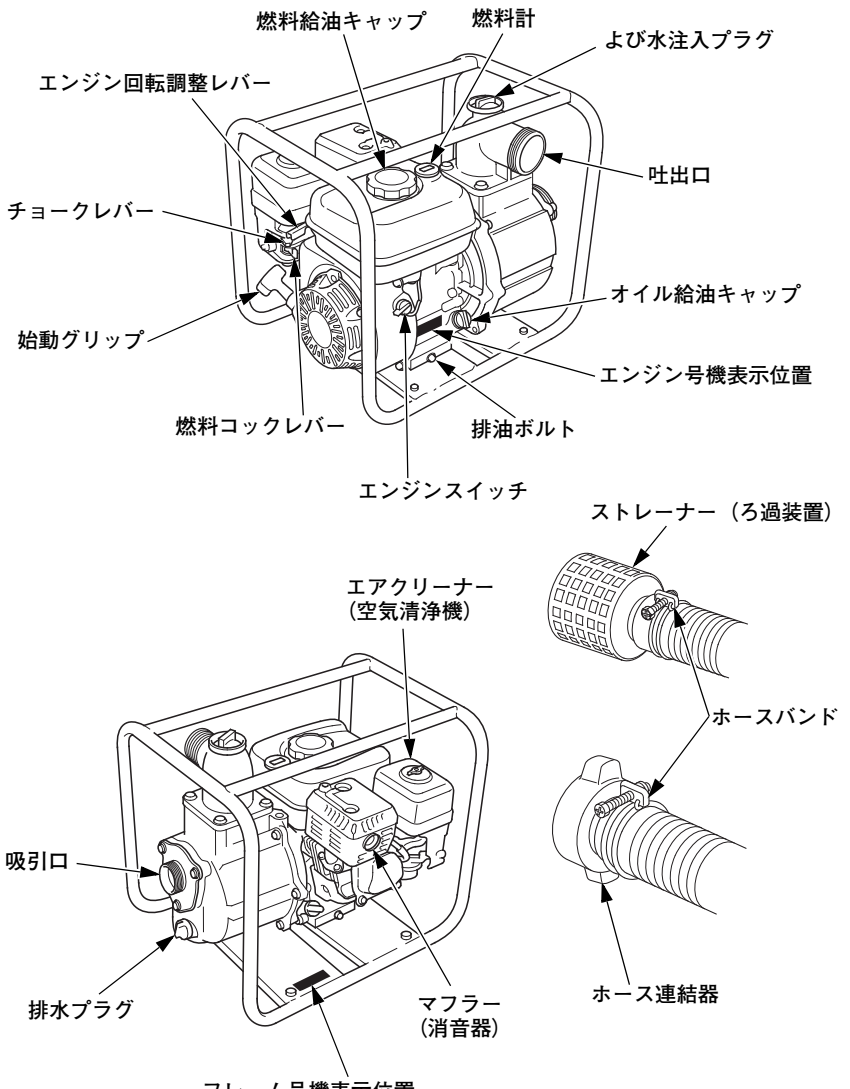

警　告
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
火気厳禁
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
警　告
死傷事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
注　意
残水が高温になりヤケドをするおそれがあるので、水を吐出しなくなったらエンジンを停止すること。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

[WH15XT]

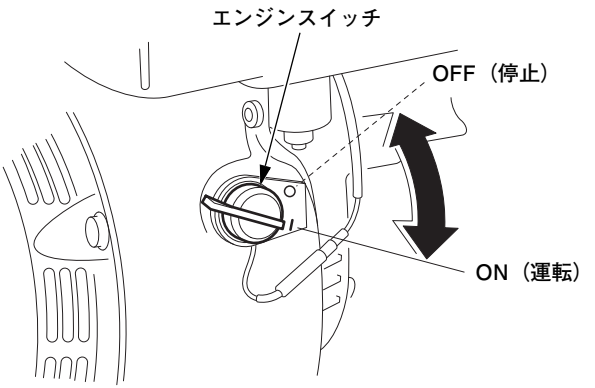


[WH20XT]


燃料給油キャップ
燃料計
よび水注入プラグ
エンジン回転調整レバー
吐出口
チョークレバー
オイル給油キャップ
始動グリップ
エンジン号機表示位置
燃料コックレバー
排油ボルト
エンジンスイッチ
ストレーナー（ろ過装置）
エアクリーナー
（空気清浄機）
ホースバンド
吸引口
排水プラグ
マフラー
（消音器）
ホース連結器
フレーム号機表示位置

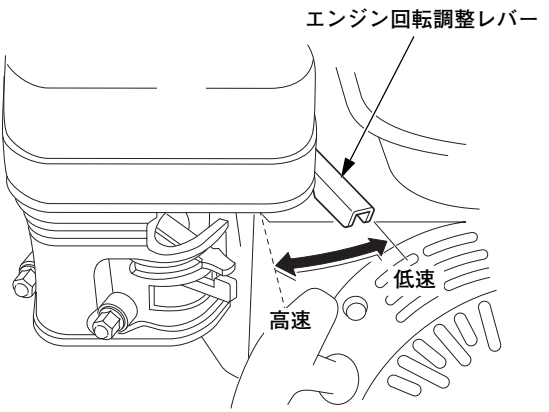
エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



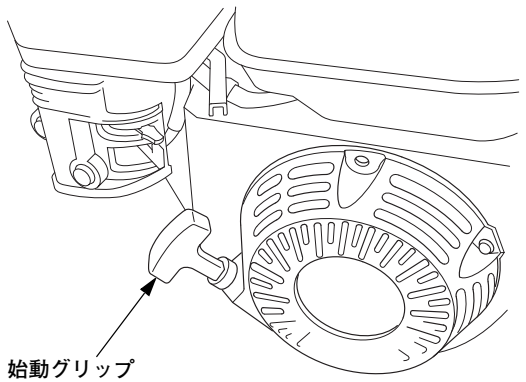
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
通常は “高速” の位置でご使用ください。



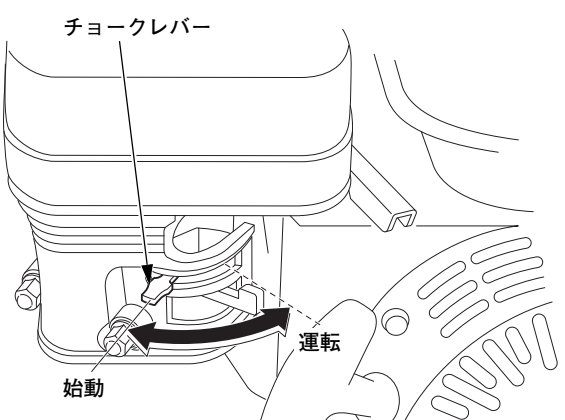
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



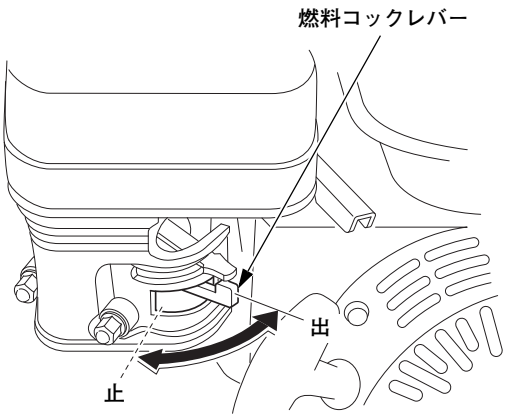
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



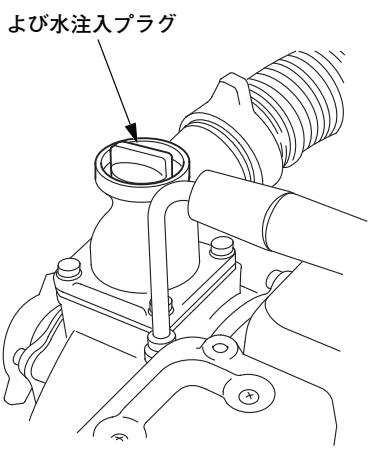
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に “出” “止” の位置に合わせてください。



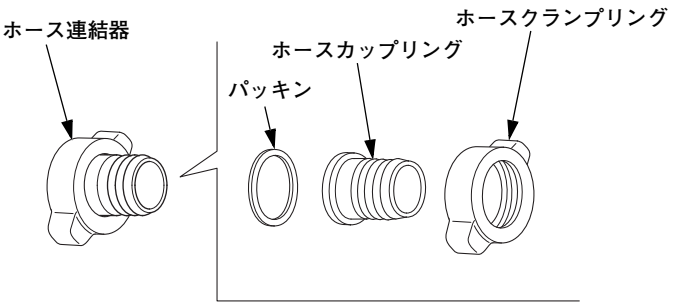
よび水注入プラグ

ポンプによび水を注入するときに使用します。



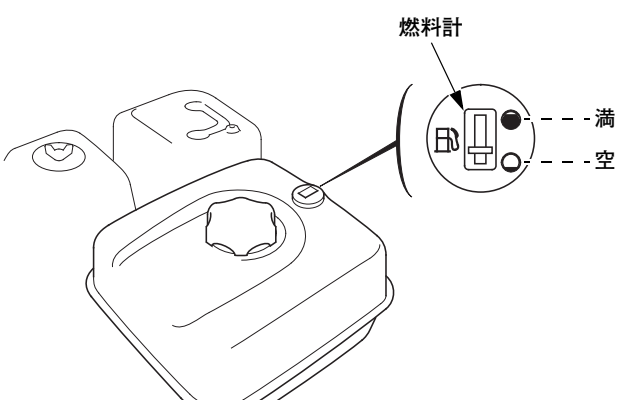
ホース連結器

本機にホースを連結する時に使用します。



燃料計（WH20XT のみ）

燃料の残量を示します。
燃料計の指針が “空” に近づいたら早目に燃料を補給してください。

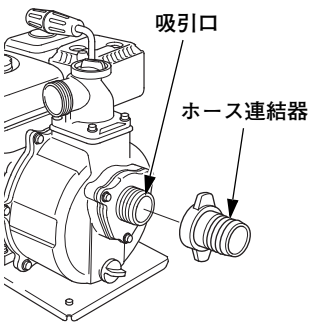


ホースの取付けかた

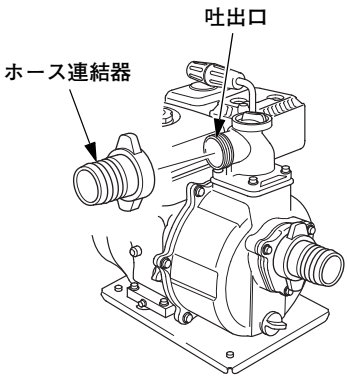
吸引ホース・吐出ホース

1. ホース連結器（14 頁参照）を確実に締付けます。

〔吸引口側〕

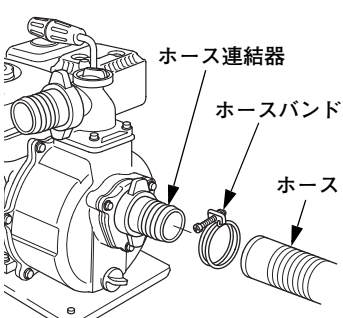


〔吐出口側〕

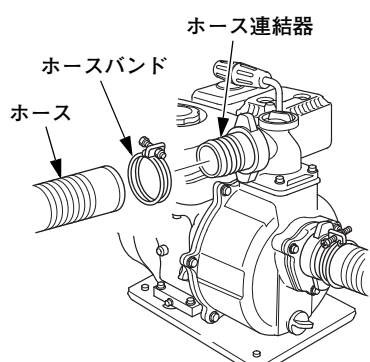


2. ホース連結器にホースを組付け、ホースバンドを確実に締付けます。

〔吸引口側〕

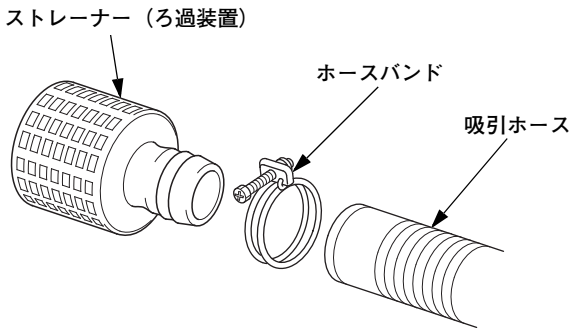


〔吐出口側〕



- 吸引・吐出ホースはお買いあげ販売店にご相談の上お買いもとめください。

3. 吸引ホースの先端にストレーナー（ろ過装置）を組付け、ホースバンドを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- ホースバンド、ホース連結器を確実に締付け空気が入るのを防止してください。締付けが不完全だと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースの長さは短いほど吸込量が多く、吸水時間が短くなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。
- 吸引ホースにはストレーナー（ろ過装置）を取付けてください。ストレーナー（ろ過装置）を取付けないと土砂やその他の異物などにより、本機が損傷するおそれがあります。

《取外しかた》

取外しは、取付けの逆手順で行います。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

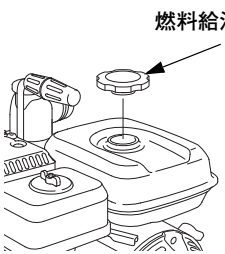
燃料の点検

⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で補給してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。**
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。**

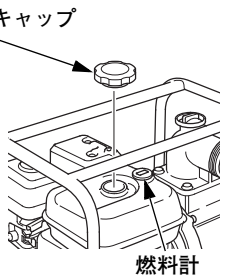
点 検

WH15XT: 燃料給油キャップを外し、燃料の量を確認します。
WH20XT: 燃料計で燃料の量を確認します。
少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

[WH15XT]



[WH20XT]



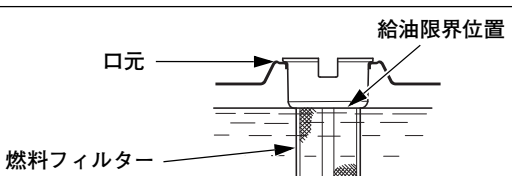
補 給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいに回してください。

取扱いのポイント

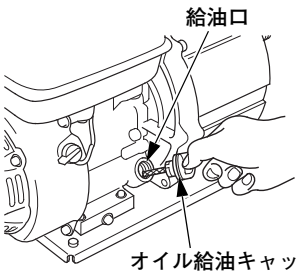
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**

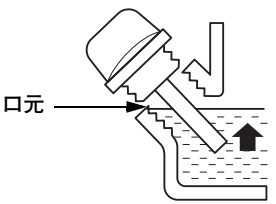


エンジンオイルの点検

点 検

エンジンを水平にした状態でオイル給油キャップを外し、給油口の口元（上限）までオイルがあることを確認してください。

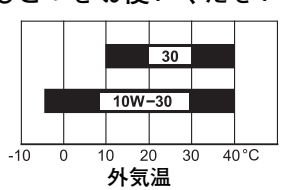




補 給

- 少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（30 頁参照）
  補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
  または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

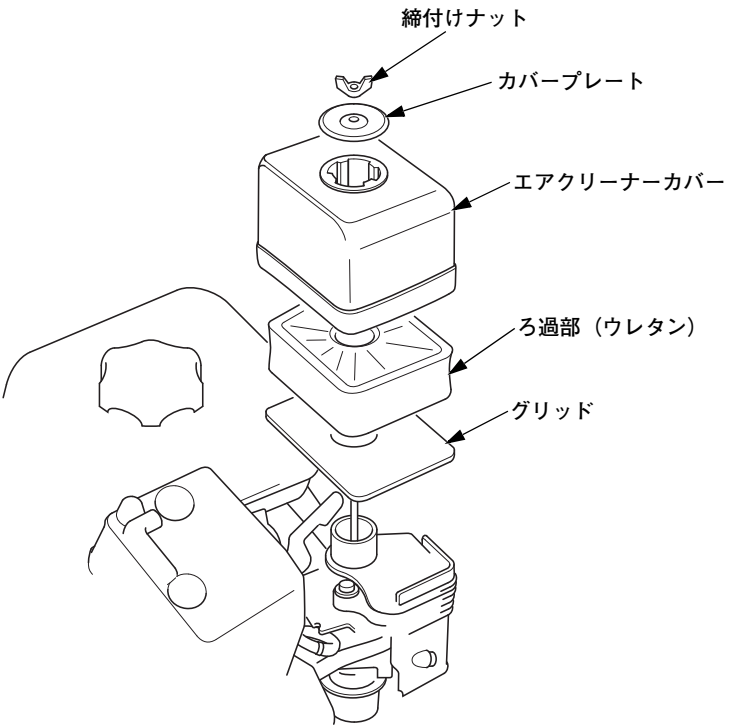


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. 締付けナットを外し、エアクリーナーカバーを外します。
2. ろ過部（ウレタン）の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。（32 頁参照）

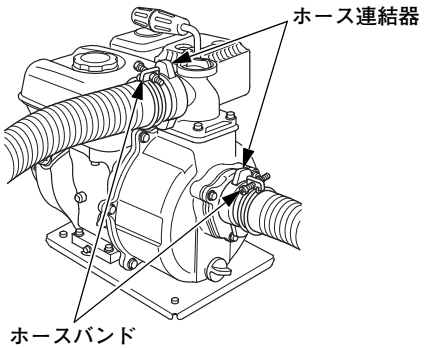


取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

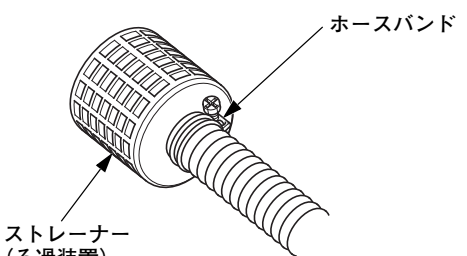
ホースバンド、ホース連結器の締付け点検

ホースバンド、ホース連結器の締付けにゆるみがないことを確認します。締付けが十分でないときには、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。



ストレーナー（ろ過装置）の点検

- ホースバンドの締付けにゆるみがないことを確認します。
  ストレーナーが外れていると石、小枝、その他の異物等を吸い込み損傷の原因になります。
- ストレーナーが水中に沈んでいることを確認します。
  ストレーナーが空中に出ていると空気を吸い込み、吸水しません。
  また損傷の原因にもなります。



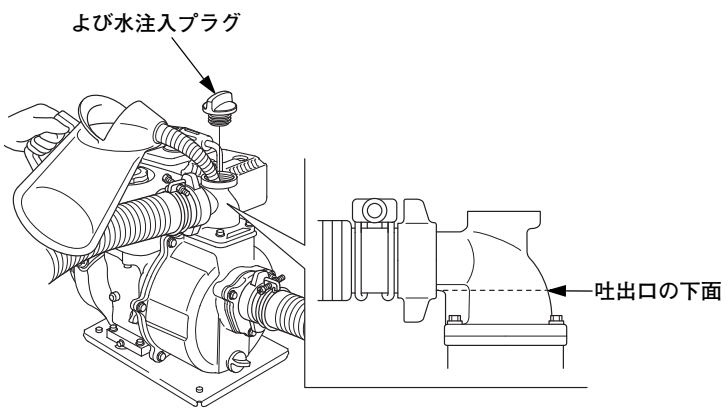
よび水の点検

よび水注入プラグを外し、吐出口の下面までよび水があることを確認します。少ないときには補給してください。

- よび水が少ないとポンプは水を十分に吸い上げません。
- 補給後、よび水注入プラグを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

よび水なしでの空運転はしないでください。過熱してポンプのシール部を損傷するおそれがあります。万一空運転した場合は、エンジンを停止して、すぐによび水を入れずポンプ部の温度が下がってから入れてください。

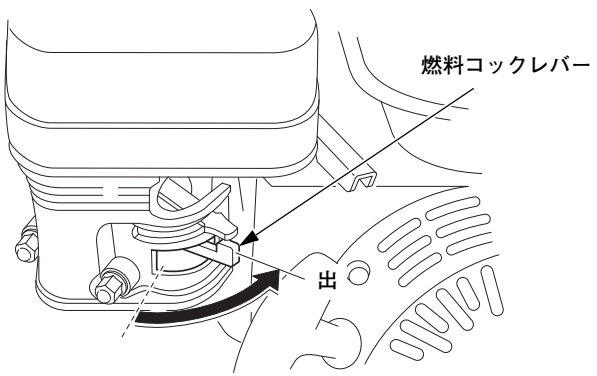


エンジンのかけかた

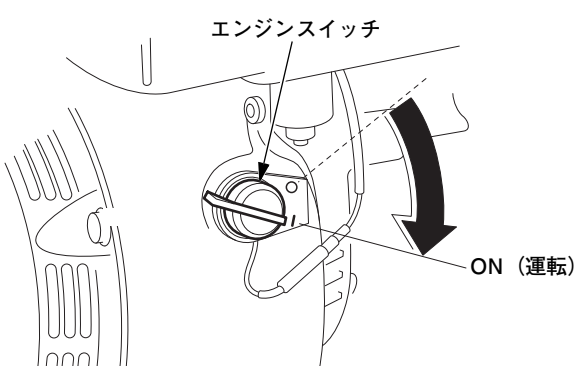
⚠警告

排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

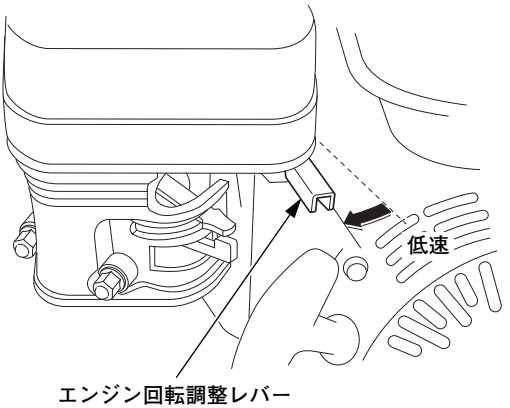
1. 燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。



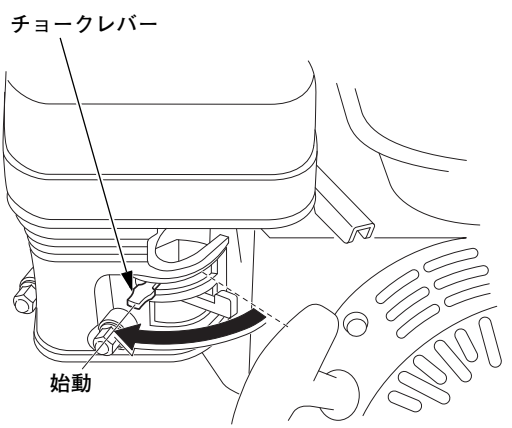
2. エンジンスイッチを “ON”（運転）の位置に合わせます。



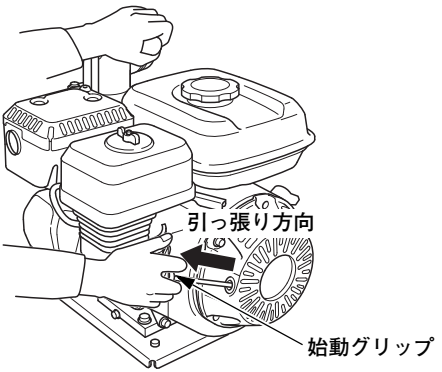
3. エンジン回転調整レバーを “**低速**” の位置から左に少し動かします。



4. エンジンが冷えているときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを “**始動**” の位置に合わせます。



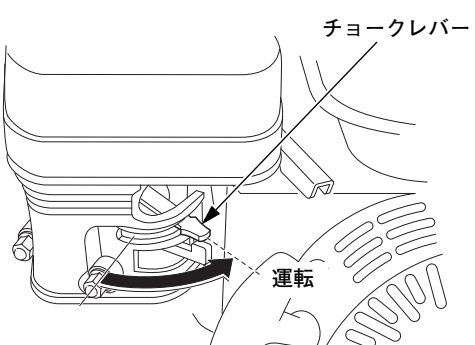
5. 始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。エンジンが始動します。



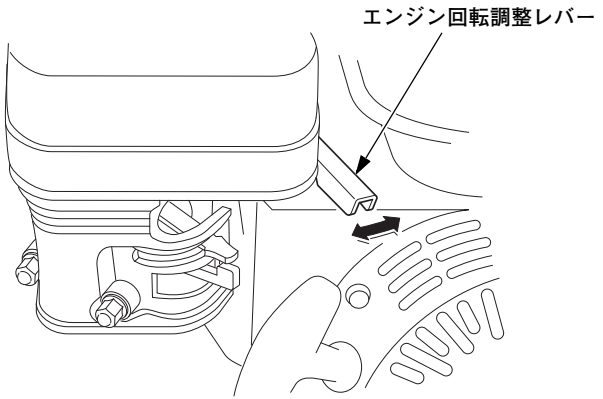
取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中はグリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

6. 2～3分間暖機運転を行います。
チョークレバーを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“**運転**”の位置に戻します。



7. エンジン回転調整レバーを使用したい回転に調節します。

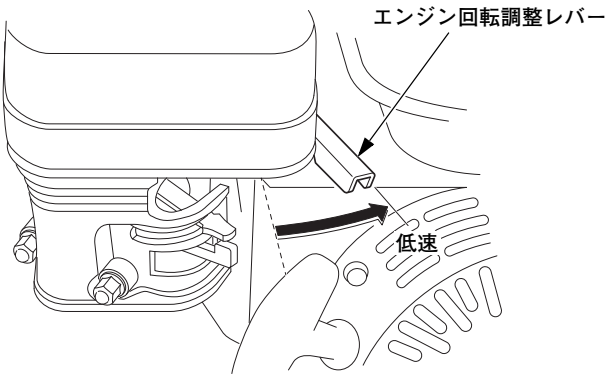


取扱いのポイント

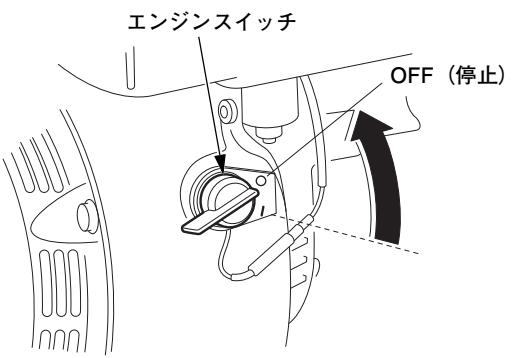
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

エンジンのとめかた

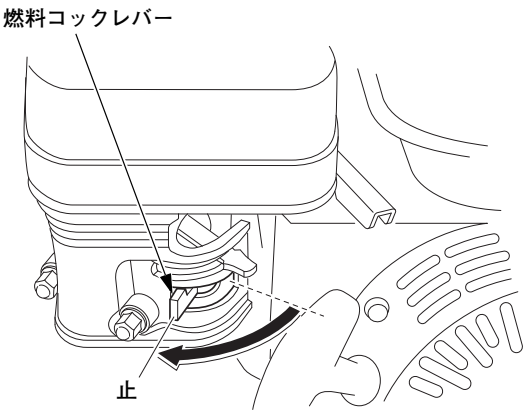
1. エンジン回転調整レバーを “低速” の位置まで戻します。



2. エンジンスイッチを “OFF”（停止）の位置に合わせます。

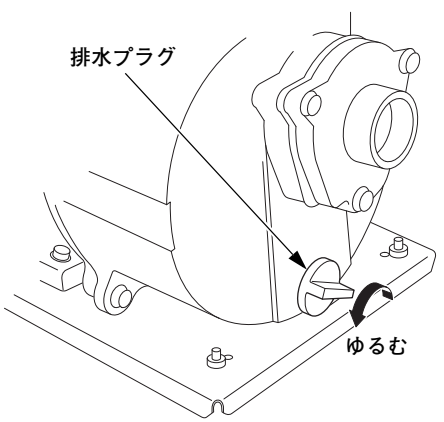


3. 燃料コックレバーを “止” の位置に合わせます。



取扱いのポイント

気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、排水プラグを外しポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaポンプをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検時期（1）／点検項目		作業前点検	1か月目または初回20時間運転目	3か月毎または50時間運転毎	6か月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○					19
	交換		○		○		30
エアクリーナー	点検	○					20
	清掃			○（2）			32
点火プラグ	点検・調整				○		34
	交換					○	34
燃料ろ過カップ	清掃				○		36
アイドリング回転	点検・調整					○（3）	－
吸入、排気弁のすき間	点検・調整					○（3）	－
燃焼室	清掃	500時間運転毎（3）（4）					－
燃料タンクおよび燃料フィルター	清掃				○（3）		－
燃料チューブ	点検	2年毎（必要なら交換）（3）					－
インペラ	点検					○（3）	－
インペラ隙間	点検					○（3）	－
インレットバルブ	点検					○（3）	－

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) ホコリの多い所で使用した場合は、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(3) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。
(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

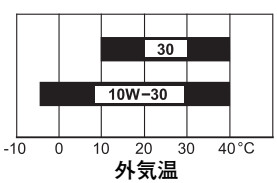
⚠警告
点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

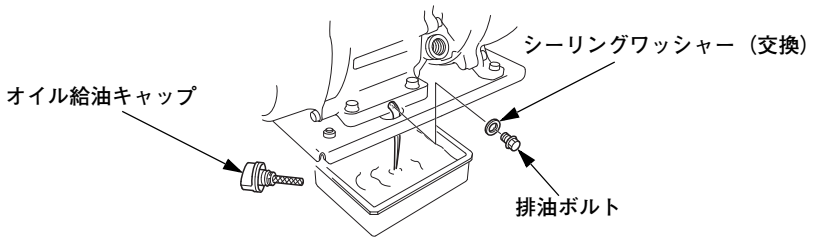


《オイル容量》WH15XT: 0.56 L
WH20XT: 0.58 L

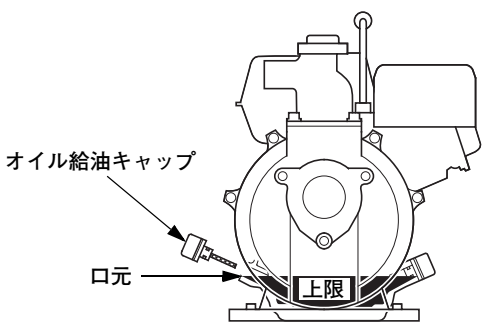
⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

交換のしかた

1. オイル給油キャップを取外します。
2. エンジンの下に適切な容器を置きます。
3. 排油ボルト、シーリングワッシャーを外して、オイルを抜きます。



4. 排油ボルトをきれいにし、新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
5. 新しいエンジンオイルを給油口の口元（上限）まで注入します。



6. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

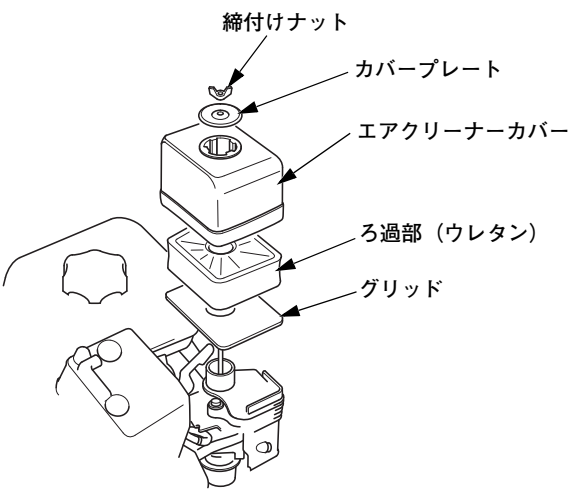
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

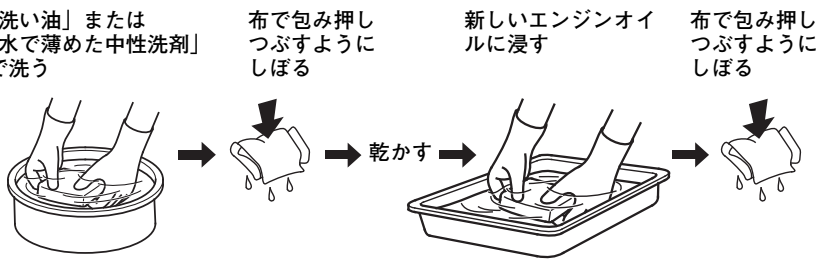
洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. 締付けナットを外し、図のようにエアクリーナーカバーを取り、ろ過部（ウレタン）を取外します。



2. ろ過部（ウレタン）を洗浄・乾燥・含油して固くしぼります。
   • ろ過部（ウレタン）は、ねじるようにして絞らないでください。
   • エンジンオイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用　SAE 10W-30
     （またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイル）



3. ろ過部（ウレタン）をエアクリーナーカバーの内側に確実に取付けます。
4. エアクリーナーカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

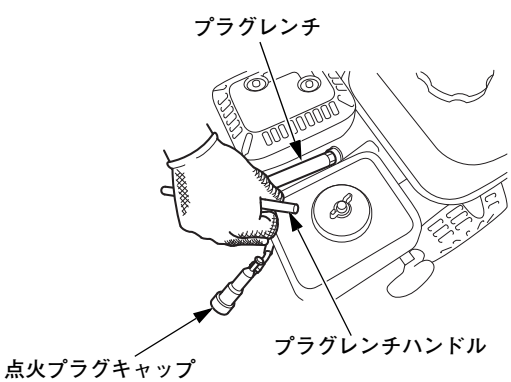
点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意
エンジン停止直後マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

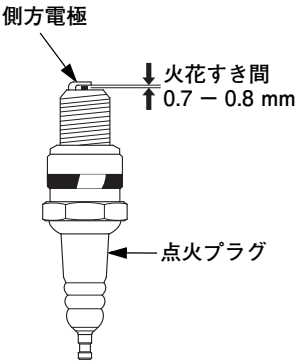
電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《標準プラグ》
BPR6ES (NGK)

《点検・調整のしかた》
1. 点火プラグキャップを外します。
2. プラグレンチ、プラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグが汚れていたら清掃します。
   清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
   プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落してください。



4. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7 － 0.8 mm
5. 取付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
6. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けてください。



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

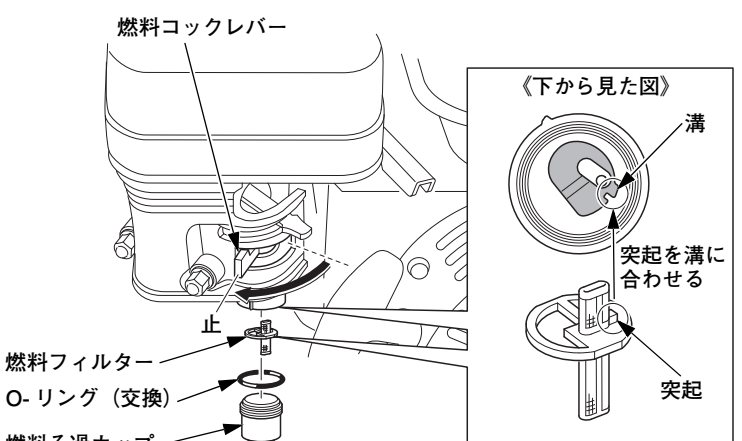
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- **火気を近づけないでください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないことを確認してください。**
- **ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。**

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーを “**止**” にします。
2. 燃料ろ過カップ、O- リング、燃料フィルターを取外します。
3. 燃料ろ過カップ、燃料フィルターを洗油でよく洗い、燃料ろ過カップの底にたまったゴミや水を取り除きます。
4. 清掃後、燃料フィルターと新しい O- リングを確実に取付けます。
   - 燃料フィルターの取付けは、図のようにフィルターの突起をキャブレター側の溝に合わせて取付けます。
5. 燃料ろ過カップを確実に取付けます。
6. 燃料コックレバーを “**出**” にし燃料漏れがないことを確認します。



長期間使用しないときの手入れ

長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。
- エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップを点火プラグから取外します。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

・換気の良い場所で行ってください。

・火気を近づけないでください。

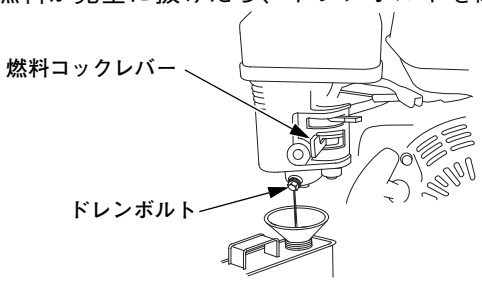
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

⚠注意

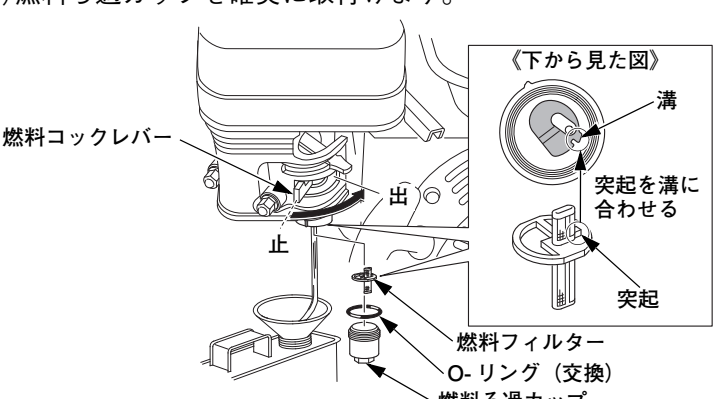
エンジン停止直後はエンジン本体、マフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

1. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を下記の要領で抜きます。
燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置します。確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。

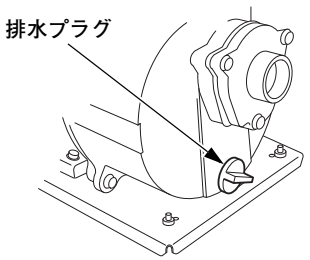
《キャブレター内の燃料の抜きかた》
1)燃料コックレバーを “止” の状態で、ドレンボルトを 1 ～ 2 回転ゆるめてキャブレター内の燃料を抜きます。
2)燃料が完全に抜けたら、ドレンボルトを確実に締付けます。



《燃料タンク内の燃料の抜きかた》
1)燃料コックレバーを “止” にします。
2)燃料ろ過カップ、O- リング、燃料フィルターを取外します。
3)燃料コックレバーを “出” にし燃料タンク内の燃料を抜きます。
4)燃料が出なくなったら、燃料コックレバーを “止” にし、燃料フィルターと新しい O- リングを確実に取付けます。
・燃料フィルターの取付けは、図のようにフィルターの突起をキャブレター側の溝に合わせて取付けます。
5)燃料ろ過カップを確実に取付けます。



2. エンジンオイルを交換してください。(交換方法は 30 頁参照)
3. エアクリーナー(空気清浄器)を清掃してください。(清掃方法は 32 頁参照)
4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にホコリなどが入らない状態になります。)
5. 排水プラグを外し、吸引口または吐出口よりきれいな水でポンプ内の土砂、異物などを洗い出します。内部清浄後は完全に水を抜いてください。その後、排水プラグを確実に締付けてください。



6. 本機の表面からグリース、オイル、汚れ、土の固まりなどの付着物を取除いてください。
7. 子供の手の届かない場所で湿気、ホコリの少ないところに、シートなどかけて保管してください。

取扱いのポイント

- **次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。**
- **オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(6 か月に 1 回新しいオイルと交換)**

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（23 ～ 26 頁参照）
2. 燃料はありますか？　（17 頁参照）
3. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか？　（34 頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（34 頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

ポンプが吸水しないときは次の点を確認しましょう。

- ホースバンド、ホース連結器の締付けは完全ですか？
- よび水は吐出口の下面まで入っていますか？
- 吸引ホースが長過ぎませんか？
- 吸込揚程が高過ぎ（最大 8 m）ませんか？
- ストレーナーが水中に沈んでいますか？

少し時間をおいてもう一度確めましょう。

主要諸元

〈ポンプ〉

項目	主要諸元	
モデル	WH15XT2	WH20XT
型式	WAJT	WAKT
吸込側口径	40 mm（1.6 インチ）	50 mm（2 インチ）
吐出側口径	40 mm（1.6 インチ）	50 mm（2 インチ）
最大全揚程	40 m	45 m
最大吸込揚程	8 m	
最大吐出量	毎分 370 L	毎分 450 L
回転方向	反時計方向（吸引口から見て）	
外観寸法		
全長	415 mm	520 mm
全幅	360 mm	400 mm
全高	415 mm	460 mm
乾燥質量（重量）	22 kg	27 kg

〈エンジン〉

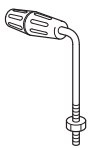
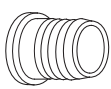
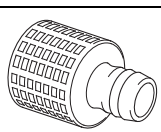
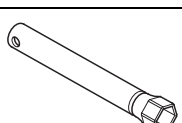
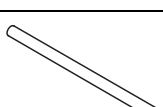
モデル	GX120T3	GX160T2
形式	強制空冷 4 ストローク単気筒傾斜型（OHV）	
排気量 （内径×行程）	122 cm^3 (60.0×43.5 mm)	163 cm^3 (68.0×45.0 mm)
点火方式	トランジスタ式マグネト点火	
エンジンオイル量	0.56 L	0.58 L
燃料タンク容量	2.0 L	3.1 L
点火プラグ	BPR6ES (NGK)	

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品・同梱工具

本機には下記の部品・工具が同梱されています。

部品・工具リスト

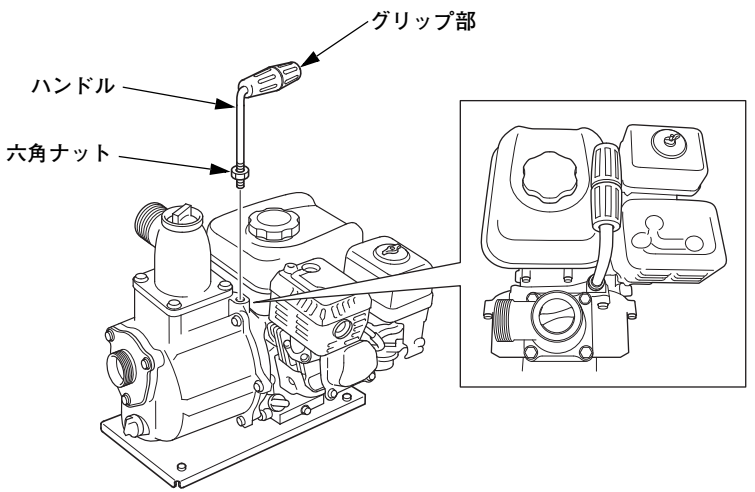
名　称		個数	使用方法
ハンドル、六角ナット（WH15XT のみ）		1	本機を使用する前に初期組付けを行う 組付けかたは 43 頁参照
パッキン		2	ホース連結器を組付けるときに使用 組付けかたは 14 頁参照
ホースカップリング		2	
ホースクランプリング		2	
ホースバンド		3	吸引･吐出ホース、ストレーナー（ろ過装置）を組付けるときに使用 組付けかたは15･16頁参照
ストレーナー（ろ過装置）		1	吸引ホースに組付ける 組付けかたは 16 頁参照
プラグレンチ		1	点火プラグの点検・整備のときに使用 使用方法は 34 頁参照
プラグレンチハンドル		1	

同梱部品の組付けかた（WH15XT のみ）

本機は、同梱部品の初期組付けが必要です。本機を使用する前に、初期組付けを行ってください。

ハンドルの組付け

1. ハンドルに組付けられている六角ナットを、グリップ側に止まるまで回します。
2. ハンドルを本機に取付け、一杯までねじ込みます。
3. ハンドルを一杯にねじ込んだ状態から、グリップ部が図のように燃料タンク側に向くまで戻します。
4. 六角ナットを本機側に回し、確実に締付けます。
   締付けトルク：19.6 ー 29.4 N·m (2.0 ー 3.0 kgf·m)



メ　モ

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

（1）製品名、タイプ名
（2）ご購入年月日
（3）販売店名
（4）フレーム号機 _____（書込み控え欄）

HONDA

© 2018 本田技研工業株式会社

30YH6610
00X30-YH6-6100

Printed in Thailand